

第三セクター等経営健全化方針（有限会社そよ風遊学協会）

1 作成年月日及び作成担当部署

作成年月日 令和元年 9 月 2 日

作成担当部署 山都町企画政策課

2 第三セクター等の概要

法人名 有限会社そよ風遊学協会

代表者 代表取締役 宮原 良一

所在地 熊本県上益城郡山都町今 297 番地

設立年月日 平成 9 年 3 月 17 日

資本金 100,000 千円【山都町出資額（出資割合） 100,000 千円（100%）】

業務内容 ホテル・宿泊、物品販売、レストラン、食品加工製造

3 経営状況、財政的なりスクの現状及びこれまでの地方公共団体の関与

有限会社そよ風遊学協会（以下「遊学協会」という。）は、そよ風パーク（宿泊施設、レストラン等）の管理運営を目的に平成 9 年 3 月に設立。平成 18 年から指定管理者として施設の管理運営を行ってきた。

遊学協会の財務状況は、直近 5 年間は 3 回の黒字決算を数えているものの、平成 30 年度決算期の累積損失は 13,200 万円を超え、3,200 万円の債務超過となっている。

経営面では、管理費や人件費などの抑制を行い経営改善に取り組んできたが、熊本地震から客数が減少し売上が落ち込み、未だ回復しておらず安定的な経営への転換が図れていない。また、平成 16 年に施設の運営資金として町が遊学協会に貸し付けた 3,000 万円は、平成 30 年度末で 2,100 万円が未返済となっている。

町はこれまで、経営課題の明確化と経営改善を図るため、外部による経営診断及びフォローアップを行ってきた。とりわけ平成 27 年度には、法人の今後のあり方も含めて経営状況を把握し、より具体的な経営改善につなげるため、中小企業診断士による財務診断を行い、外部識者の視点や評価を踏まえた改善指導を行ってきたところである。

4 抜本的改革を含む経営健全化の取組に係る検討

遊学協会は平成 27 年度の財務診断結果を踏まえ経営診断に基づく経営改善方針を提出し、組織体制と業務効率の見直し、売上の増加といった改善事項に取り組んできたが大きな改善は見られていない。

そよ風パークは、農村と都市の交流施設として、農林業の振興、地域の活性化の拠点として、また若者定住促進を図る雇用の場として設置されたもので、遊学協会は第三セクターとしてその目的達成のため運営にあっている。

当施設は、地域振興を図るうえで、重要な施設であり、行政運営上必要な施設である。しかしながら、債務超過の状況にあるため、本方針に基づき経営の健全化に向けた抜本的改革に努める。

5 抜本的改革を含む経営健全化のための具体的な対応

①経営状況の把握

当該法人から提出された具体的な取り組みや数値目標をもとにして、町として進捗状況や評価検証を行い、経営の改善を支援していく。

月次で部門別の損益計算を行い、毎月経営状況を把握する。

②経営形態のあり方

町は、利用者のニーズに対応するため、本年度中に客室にトイレを設置するなど 11 部屋の改修を行い、利用客増加に繋げる。遊学協会は、令和 2 年度から売上の増加と収益の確保を目指す。

また、農園やそよ風広場など収益性が低い施設の管理運営のあり方や、部門別の損益計算を行い収益が見込めない部門について課題の洗い出しを行い、今後の方針を検討していく。

③当該法人自らによる経営健全化のための取り組みを支援し、適切な指導・監督・要請の関与を行う。

④事業手法の見直し

①②③により当該法人への支援を行い、経営改善の状況を見ながら、平成 29 年 3 月に策定した「第三セクターの経営健全化に関する指針」の「抜本的改革を含む経営健全化の取り組みに係る検討のフローチャート」に基づき、適切な事業手法の検討を行うこととする。

※遊学協会における具体的な取組内容

(1) 人材育成と人材確保

施設に従事する職員が不足している。職員の多くは高齢者が目立ち若年層の職員が確保できていない。給与や待遇の改善を図るとともに働き甲斐のある職場づくりを目指し積極的に人材の確保を目指す。

①職場体験等を通じた職場のPR活動

②リタイヤ組やUターンにより帰郷した人材の確保

③現職員へのスキルアップのための研修やミーティング実施

④継承されてきた業務マニュアルの見直しによる効率化と経費節減

⑤リスクマネジメントによる経費節減意識の向上や施設全体としての受け入れ態勢の整備

(2) 売上増加に対する取り組み

宿泊部門においては、ホテル 11 室（内和室 3 部屋）、コテージ 10 棟を管理している。現在は、平日の稼働が期待されるシニア層をメインに営業を強化しているが、コテージ等を好むファミリー層やスポーツ団体は大型連休や夏季に集中しており平準化できていない。また、客室にトイレや風呂が設置されていない不利な条件もあり一般ユーザーから選ばれていない。

ホテル客室のトイレ、シャワー等の整備により一般ユーザーへのアプローチも可能となるとともに、室料への反映も期待できるため客単価の向上が図られる。

①シニア層をメインターゲットとして送迎可能な地域の顧客拡大を目指す

②シニア層から施設整備によりインバウンド等の新規顧客の開拓や九州中央地域に位置する立地条件を生かした営業活動の強化

③「食」を主体とした営業をさらに強化し「ホンモノ」志向の顧客確保

④スマートフォン版ホームページの内容充実や多言語による表記

⑤特産品をリニューアルした商品の開発や販路拡大

(3) 点在施設間の連携と人的連携

広大な16haの敷地内に点在する施設やその施設に配置している職員間の連携を密にし、施設全体としての満足度アップを図るとともに、売り上げ確保につながる取り組みを強化する。

- ①点在する施設の有効かつ効率的な活用を検討
- ②遊休施設の維持管理から営業活動につながる産物の生産や活用
- ③施設間職員の応援体制や交流、営業活動の連携

(債務超過解消に向けた(有)そよ風遊学協会の実績と今後の目標) (千円)

	営業損益	経常損益	純資産額	備考
平成30年度(実績)	-6,433	-6,667	-32,063	
令和元年度(目標)	-4,799	-4,993	-37,241	
令和2年度(目標)	575	490	-36,936	
令和3年度(目標)	1,089	1,076	-36,045	
令和4年度(目標)	1,542	1,528	-34,702	
令和5年度(目標)	3,171	3,158	-31,729	

(参考)

6 法人の財務状況

	項目	金額 (千円)				
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
貸借対照表から	資産総額	36,429	52,206	36,706	37,624	27,149
	(うち現預金)	2,401	12,035	1,467	10,733	4,946
	(うち売上債権)	3,284	5,850	5,495	4,287	4,543
	(うち棚卸資産)	7,511	6,932	6,892	4,332	4,337
	借入金残高	61,497	80,499	63,487	48,425	34,549
	株主資本 (純資産額)	-42,138	-48,424	-47,360	-26,547	-25,269

	項目	金額 (千円)				
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
損益計算書から	経常収益	262,419	242,702	256,670	258,461	245,711
	経常費用	258,755	248,805	255,424	235,898	244,898
	経常利益	3,664	-6,103	1,246	22,563	1,538
	経常外利益	0	0	0	0	0
	当期純利益	3,481	-6,285	1,063	20,782	1,278
					※熊本地震の補助金 25,000千円含む	

